

人と人とのふれあいの中での成長を見つけて

副校長 藤田 健太郎



桜の木も桜色の花から緑色の葉へと変わり、次の年へ向けて栄養を蓄える準備ができていることが分かります。桜の木の変化から、季節が夏へ向かっていることも感じられます。桜の花は、日本の春の象徴で、咲いていることが分かりやすい木ですが、学校の敷地内には、桜の他にも季節ごとに花を咲かせている木があります。そんな小さな変化

を見つけられると日々の生活にも楽しみが増えていきます。

5月14日(火)に全校遠足が行われました。前日の雨で、目的地の公園の状態が心配されましたが、当日は、曇り空のもと、暑くも寒くもなく、快適な気温の中で実施することができました。足元がややぬかるんでいる所があり、足を滑らせて転んでしまう児童もいましたが、同じ班の友達に優しく声をかけてもらい、活動を楽しむ姿がありました。全校遠足は、ふれあい班の縦割り班で活動し、異学年交流を一つの目的に行っています。どの班でも、上の学年の児童が下の学年の児童に優しく声をかける姿、上の学年のお兄さん、お姉さんを頼って、安心して活動を楽しむ姿などがたくさん見られました。特に、班のリーダーである6年生は、自分が楽しむよりも班のメンバーのことを気かけ、みんなが楽しめるように行動していました。大変立派な姿でした。



5月24日(金)に行われた新体力テストも、ふれあい班のペア学年(1・6年、2・4年、3・5年)で行いました。この活動でも、上の学年の児童が下の学年の児童に行い方を優しく教える姿、下の学年の児童に「すごーい。」と言われ、ちょっと恥ずかしそうだけど得意気な顔など、普段の学校生活では見られない姿が見られました。

ふれあい班の活動を通して、上の学年の児童は、与えられた役割に責任をもって取り組み、達成感を得る。下の学年の児童は、上の学年の児童の優しさや力強さに触れ、安心して活動を行ったり、上の学年の姿から、次は自分がそんな存在になりたいと思いがれの気持ちをもったりする。今回の2つの活動で、縦割り活動のよさを味わっている姿、それぞれに成長している姿が各班で見られました。

今年度のふれあい班の活動は、まだまだ始まったばかりです。これからも様々な活動で、子どもたちのよさが見られることを期待するとともに、少しの変化も見逃さずに価値づけ、それぞれの成長をしっかりと支えてまいります。引き続き、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。